

東京芸術祭ファーム ラボ ガイドライン

東京芸術祭ファーム ラボ は、他者へのリスペクトを前提とし、さまざまな人がその出自や立場にかかわらず、安心して創造的な力を発揮できるよう、このガイドラインに則って運営され、参加者、スタッフ等、関わる全員を対象とします。

万が一このガイドラインを守らない場合、それを指摘した運営側の指示に従わない場合など、本プログラムでの活動を継続することが不適当な場合は、それ以降の参加について主催者で検討する場合があります。

また、プログラム参加中に、もしプログラムの運営や内容等に対する意見、要望、疑問、その他不安や心配なことがあれば、いつでも各プログラムの担当者、コミュニケーションデザインチームなど、相談しやすいスタッフに相談しやすい方法でご相談ください。

■ プログラムをより良くするために

- 東京芸術祭ファーム ラボ では、参加者、スタッフ全員の風通しの良い双方向のコミュニケーションを大事にしています。自分の立場（地位、年齢、性別、国籍等）が、周囲に与える影響に自覚的になり、適切に発言・行動してください。
- 「セーフ・スペース」（誰もが安心できる場）を全員で構築することが、より良い創作や交流に繋がるという認識の上に、参加者全員が自覚的に場作りをしていきましょう。
- ガイドラインの内容は、決められた活動日のみではなく、人間関係がそのまま持続する場（プログラム以外の時間での活動、オンライン飲み会やSNS）においても同様です。

■ 差別やハラスメントの禁止

東京芸術祭ファーム ラボ では差別やハラスメントを禁止します。

差別とは、国籍、人種、信条、信仰、ジェンダー、性的指向、嗜好、身体的特徴等を理由に非難、侮辱、排除する等、不利益な扱いをすることや、合理的配慮を怠ることをいいます。

ハラスメントには、性的性質を有する言動（性的な関心や欲求に基づくもの、性別により差別しようとする意識、性的指向や性自認に関する偏見 等）によってプログラムへの参加環境を害するセクシュアル・ハラスメントや、関係の優位性や自らの権力や立場を利用した嫌がらせであるパワー・ハラスメント等があります。なお、以下の行為はあくまでも一例であること、個別の事案の状況等によって判断が異なる場合があることにも留意してください。

(セクシュアル・ハラスメントの例)

- ・ 交際や性的な関係を強要する。
- ・ 相手に断られているのに、理由をつけて二人きりになりたがる。
- ・ 電子メール、手紙、SNS、電話等でしつこく付きまとう。
- ・ 相手の同意なく、不必要に身体に接近・接触する。
- ・ パソコンのスクリーンセーバーや背景画像等、他人が目にするところにヌードや水着の写真等を貼る。
- ・ 相手の容姿や身体的特徴等を話題にしたり、からかったりする。
- ・ 事前の同意取得なく恋愛経験や性体験について急に持ち出す／尋ねる。
- ・ 「男だから／女だからこの作業をして」等、性別役割分担意識に基づいた発言や指示をする。
- ・ 「男の子、女の子」「僕、坊や、お嬢さん」「おじさん、おばさん」等、属性を決めつけるような呼び方をする。
- ・ 卑猥な冗談を言う。
- ・ 相手の事前の同意なく、性的な表現を強要する。
- ・ 性的な言動への抗議や拒否等を行った人に対し、出番を減らすなどの不利益を与える。

(パワー・ハラスメントの例)

- ・ 肉体的な攻撃
 - 殴る・蹴る。
 - 物を投げつける。
 - ノートなどで頭をたたく、コップの水やお茶をかける。
- ・ 精神的な攻撃
 - 脅迫する。
 - 立場の違いや権力勾配を利用して無理な要求をする。
 - 暴言を吐いたり、威嚇的な行動をとる。
 - 人格を否定するような発言を繰り返す。
 - 名誉毀損となるような言動を行う。
 - 無視する等、存在を認めないような対応をする。
 - 殴る真似などの疑似暴力を行う。
- ・ 過大な要求
 - 本人の身体能力の安全な運用範囲をこえた運動や肉体労働を強要する。
 - 個別の事情に配慮せず、身体的負荷が高い作業を強要する。
 - 1人だけに仕事を押し付ける。
- ・ 過小な要求
 - 他の人とは違い明らかに過小な作業しかやらせない。
- ・ 人間関係からの切り離し
 - 正当な理由なく、会場や稽古場等への出入りを制限したり、連絡網から外す。
 - 必要な情報を意図的に伝えない。
 - 特定の一人を集団で無視をし、孤立した状況をつくる。
- ・ 個の侵害
 - 私的なことに過度に立ち入る。
 - 断りづらい状況を利用して個人のプライベートな情報や持ち物に対して開示を求める。

(その他のハラスメントの例)

- ・モラル・ハラスメント
 - 場の雰囲気悪くし、相手を萎縮させる振る舞い、言動など。
- ・アルコール・ハラスメント
 - 地位の上下関係、組織への帰属意識などを利用して飲酒を強要するもの。
- ・ソーシャルメディア・ハラスメント
 - ソーシャルメディア上での、相手の人格や尊厳を傷つける不適切な言動。
 - 立場や地位を利用し、ソーシャルメディア上で関係性を強要すること。

差別・ハラスメントをしないようにするために、関わる一人ひとりが次の事項について十分認識した上でプログラムに参加してください。

- お互いの人格や信条、信仰を尊重しあうこと。
- お互いが大切なチームのメンバーであること。
- 言動に対する受け止め方には、個人間、立場等により差があり、ハラスメントに当たるか否かについては、受け手の判断が重要であること。
- 親しさや好意を表すつもりの方の言動であったとしても、本人の意図とは関係なく、相手を不快にさせてしまう場合があること。
- 不快に感じるか否かには個人差があるため、この程度のことは相手も許容するだろうという勝手な憶測をしないこと。(相手との良好な人間関係ができていると勝手な思いこみをしないこと。)
- 相手が拒否している、又はいやがっていることが分かった場合には、同じ言動を決して繰り返さないこと。
- 相手からの意思表示がない限りは差別やハラスメントには当たらないわけではないということ。

■ 他者の権利の侵害の禁止

プログラム中に知りえた個人情報やアイデア等、参加者しか知りえない情報を本人に断りなく口外することを禁止します。

(口外することを禁止する情報の例)

- ・プログラム中に共有された創作のアイデア
- ・居住地、家族構成等のプライベートな情報
- ・まだ公開されていない活動の予定(公演の予定、フェスティバルへの参加予定等)

オンラインセッション中に、著作権や肖像権等の他者の権利を侵害するものが映り込まないように注意をしてください。

(注意が必要な例)

- ・オンラインミーティングのバーチャル背景やフィルターに使用する画像
- ・発表資料中に使用する画像等の素材
- ・ビデオ通話の画面に映り込むもの(周囲にいる第三者等)
- ・テレビやラジオから流れる音や曲

作品、プレゼンテーション等、公にされる全ての創作物において、他者に権利がある素材を正当な手続きを経ずに使用することを禁止します。

■ 本人が希望する人称代名詞および敬称の使用

人称代名詞（he/him、she/her、they/them 等）や敬称（Mr. やMs. 等）は見た目や氏名で他者が勝手に推測するのではなく、その人自身が何と呼んでほしいかを尊重します。人称代名詞を用いずに名前と呼んでほしい等の希望がある場合も本人の希望を尊重します。

（日本語話者の場合）

見た目や氏名でジェンダーを推測し「～ちゃん」「～くん」という呼び方をしたり、自分より年齢が若いという理由だけで呼び捨てにすることはしないようにしてください。相手によって態度を変えることは上下関係の強化につながり、フラットな関係性の上での協働の妨げになります。

■ SNS等での発信について

東京芸術祭ファーム ラボ の各プログラムに参加しているご自身のことをSNSで発信することは問題ありません。

自分以外のこと（スタッフ、参加者等）に関する文章、画像、動画等を投稿する場合は、事前に本人に了承を得るようにしてください。また、個人の名前が入っていても、個人を特定しうる情報が入っている場合も同様です。